

## 自然観察会「<sup>そのう</sup>園生の森」

太田慶子（千葉市）

モノレールのスポーツセンター駅から徒歩5分あまりの所にある「園生の森公園」はもと市民の森だった所で、2016年からは「森を育てる会」が第2土曜日の午後を定例会にして、整備・観察をしています。前々日の2月10日も、まもなく葉を出し始めるキツネノカミソリのために（翌13日には葉が上がり始めていました）、笹刈と落ち葉掻きをしたばかりでした。

当日は真冬の観察会なので、「越冬する小さな生き物さがしをしよう」と思いましたが、まず参加された皆さんの目の前に現れたのは、じっと動かないモズの若い♂でした。20名余りのヒトがいるのに本当に動かない・・・人馴れしすぎ！

さて、小さな生き物は、寒い冬を何とか乗り越えようと工夫をしています。暖かい南側ではなく、むしろ“あまり日の当たらない、つまり寒暖の差の小さい東側や北側、雨風の当りにくい、乾燥しすぎないところにいる”ようです。例えば、入口近くの太いヤマザクラが傾いた凹みに、ヨコヅナサシガメ幼虫がかたまっていました。整備の時に伐ってもらったイヌシデなどを50cmあまりの長さにして小道に並べてある、その下をひっくり返すと、湿った土と朽木にはムカデやマクラギヤスデ、シロアリなどが見られました。風の通らなそうな地面近くのヤツデの葉裏には、背に金色のX模様のあるセモンジンガサハムシが何匹もいました。シロダモの葉をつづったその中にはクサグモの卵のう・・・

けれど、この時期の園生の場合は何と言っても、木々や草の間にもまず見つからないと思われるフユシャクの♀が、「木道の木の手すり」に目の高さで見られることです。フユシャクの仲間は何種類もいて、12月頃から出現します。特徴は、♂には翅があっても、♀には翅がなかったり、あってもごく小さな翅しかもたないので、一見とてもガとは思えないことです。

この日は、始まる1時間ほど前にも下見をしたのですが、♀が2匹と卵塊が何個か見付き、ほっとしていました。さらに本番には、さすがにたくさんの眼があるといいですね。誰が「これは？」と聞かれたのを見ると白っぽい「シモフリトゲエダシャクの♀」でした。大きさも1.5cmほどありますから、他の淡褐色で7mmくらいしかない♀と比べると、注目の的になりました。（当日、よく見ないで、よく似たチャバネフユエダシャク♀と言ってしまいました）

他にも、木道手すりの、凹みや裏側の雨の当たらない部分に、ジョロウグモの卵のうがたくさん（鳥の餌食になっているものもあり）。またヨコヅナサシガメ幼虫の黒い塊も何か所かあり、コカマキリの卵のうも。

木道の途中、湿地の草原にはシジュウカラの群れ、コゲラなど、またカワラヒワの群れが飛んできて、しばらくはバードウォッチング。木道が終わったところ、低木にはジャコウアゲハの蛹がくっついています・・・、そう春になると、ウマノスズクサが出てくるんです。

